

標準的な接種スケジュール例

令和2年8月1日現在

☐：公費助成で接種できる期間

■：日本小児科学会推奨接種期間

▼：標準的な接種時期

●：通知送付時期

ワクチンの種類	接種回数	0か月	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳
ヒブ 2か月～5歳に至るまで	1～4回			▼ 1	▼ 2	▼ 3								追 ▼															
公費助成で接種できる年齢																													
小児用肺炎球菌 2か月～5歳に至るまで	1～4回			▼ 1	▼ 2	▼ 3								追 ▼															
公費助成で接種できる年齢																													
BCG 1歳に至るまで	1回						▼ 1																						
公費助成で接種できる年齢																													
B型肝炎 1歳に至るまで	3回			▼ 1	▼ 2									▼ 3															
公費助成で接種できる年齢																													
ロタウイルス	ロタリックス 6週～24週			▼ 1	▼ 2																								
	ロタテック 6週～32週			▼ 1	▼ 2	▼ 3																							
四種混合 3か月～7歳半に至るまで	4回			▼ 1	▼ 2	▼ 3								追 ▼															
公費助成で接種できる年齢																													
二種混合 11歳以上13歳未満	1回																												
公費助成で接種できる年齢																													
麻疹風しん混合 (1期) 1歳～2歳に至るまで (2期) 小学校就学前1年間	2回													(1期) 1 ▼															
公費助成で接種できる年齢																													
水痘 1歳～3歳に至るまで	2回													1 2 ▼ ▼															
公費助成で接種できる年齢																													
日本脳炎 (1期) 6か月～7歳半に至るまで (2期) 9歳以上13歳未満	4回													(1期) 1 2 ▼ ▼															
公費助成で接種できる年齢																													
子宮頸がん ※女性のみ 小学6年生～高校1年生相当	サーバリックス 3回 ガーダシル 3回																												
公費助成で接種できる年齢																													

生後2～7か月に接種開始した場合の接種例です。接種開始時期によって回数と間隔が異なります。詳細は「ヒブワクチン接種フローチャート」、「小児用肺炎球菌ワクチン接種フローチャート」をご確認ください。

・原則として、初回接種は生後14週6日までに行います。15週以降の初回接種は、腸重積症の好発年齢と重なるためお勧めしていません。
・原則として、途中からワクチンの変更はせず、最初に接種したワクチンを続けて接種してください。

・平成19年4月1日以前に生まれた方は、1期と2期の不足分を20歳になる前日まで公費で接種することができます。
・平成19年4月2日～平成21年10月1日の間に生まれた方は、1期の不足分を9歳～13歳未満の間に公費で接種することができます。

平成25年6月以降、積極的な勧奨を差し控えています。接種を希望する方は健康推進課までご連絡ください。

出生届の際に必要な書類をお渡ししています。